

計画建設を推進



熊本県知事 桜井 三郎

県民の皆さん
明けましておめでとうございます

昭和も既に三十三年、県の施策も「産業振興」「総合開発」の段階を経て「計画建設」へと発展して参りましたが、この間郷土の開発、産業経済、文化、民生等各方面にわたり非常な伸張向上を遂げ、県民所得も順調な伸びをみていますことは、ひとえに皆様のご協力の賜と先ずいつて心から感謝いたします。

今年はいよいよ計画建設の第三年目を迎え、年頭心を新たにこれが促進を期する次第であります。ご承知のとおり、この施策は「農工併進」によつて県の産業構造を近代化し、県民所得を大巾に引き上げようとする県政十年の理想図であります。

更に又、一万屯級大型船舶の接岸可能な八代港の拡充整備も今年よりその緒につき、今春竣工就航を予定され、熊本駅の新築並びに有明海を横切る自動車航送船、更には健軍飛行場の建設と相俟つて海、陸、空の交通輸送施設も一段と強化されようとしております。

その他工場誘致についても既設工場の拡充とともに総額四十数億円を投じた十数製紙クラフトパルプ工場も愈々今春には操業を開始せんとしており、熊本平野の天然ガス、天草の石油等の地下資源の調査、試掘も漸く活発化し、近い将来予想される古田ダム建設と鹿児島本線の複線化とともに、「明日の工業都市」八代臨海工業地帯の造成もその実現に著しく明るさを増して参りました。

一方、産業振興の面においては、水稲の早期栽培は昨年の輝かしい成果に鑑み、今年には恐らく飛躍的普及をみるでありましようし、多年の懸案でありました農業試験場の移転改築も本年度中に竣工の見込みで、これを機会に畑作振興

にも一段の努力を払い、又阿蘇、球磨両地域の集約酪農を積極的に推進するとともに、園芸、養蚕、水産の振興はもとより農村振興の母体たる農協の育成には特に力を注ぎ、新市町村乃至新農山漁村建設、所謂町づくり村づくりを強力に展開して参りたいと思つています。

今年はこの事業の他、更に天草架橋、玉名平野の総合開発、不知火大干拓、災害復旧、上下益城郡を含んだ熊本平野の総合開発、九州横断道路、三太郎峠並びに鹿本郡南部における国道改修、森限鉄道の建設促進等重点施策としてこれらと取り組み、九州地方総合開発事業との緊密なつながりの下に県の総力を挙げて強力に推進する覚悟であります。

なお、今春は両陛下を迎えて植樹行事を催すことになっておりますが、これを契機として造林事業にも一段の力を入れたいと考えています。

以上年頭にあつて抱負の一端を述べたのでありますが、今年も国際収支の改善を基調とする金融引き締めが続けられるでありましようし、県の財政も再建整備の厳しい条件下におかれており、その他多くの困難な問題が山積しております。

従つて県政百年の大計である計画建設の推進は、県民の皆様の心からのご理解とご協力とがなくては到底なし得ないのでありまして、今後とも皆さまの絶大なご支援を切に願ひいたす次第であります。

最後に県民の皆さまの限りないご多幸を心から祈念して年頭の挨拶といたします。

拓げゆく球磨川

市房ダムの本格的着工へ



市房ダムは、利水事業も球磨川開闢の第一歩として、今年に於いて本格的に建設に入ると見られてゐる。この建設は、市房ダムの建設と併行して、球磨川開闢の第一歩として、今年に於いて本格的に建設に入ると見られてゐる。この建設は、市房ダムの建設と併行して、球磨川開闢の第一歩として、今年に於いて本格的に建設に入ると見られてゐる。

市房ダムの建設は、利水事業も球磨川開闢の第一歩として、今年に於いて本格的に建設に入ると見られてゐる。この建設は、市房ダムの建設と併行して、球磨川開闢の第一歩として、今年に於いて本格的に建設に入ると見られてゐる。

山峽にこだまして進む掘さくと道路工事

現況

市房ダムは昨年六月二十九日起工式が行われて実施段階に入ったが、まづ三十二年度九億一、七〇〇万円で現在ダムサイトの掘鑿と諸準備、附帯工事を中心にして進められている。

バス道路より上部が行われているが、鑿岩機やブルドーザーで掘鑿し、その土石を巨大なショベルですくいあげ、数台のダンプカーに乗せて土砂捨場に運ぶという、すべて機械力による反復作業が目まぐるしく続けられている。

假排水トンネルも貫通

これらの工事とともに、コンクリートとを混合するパッチャー・プラントと、その高熱を防ぐためのクーリング・プラントの湯山へ向う県道の付替工事の機械力を利用してぐんぐん進められ